



大阪部会 (No.92)

日時: 2025年1月19日(日) 15:00 - 17:00

場所: 同志社大学大阪サテライト

参加者: 17名

【内容要旨】

最初に、田中誠也氏(大阪教育大学附属池田中学校)から「金融リテラシーを育む経済学習ーフィナンシャル・ウェルビーイングをめざしてー」と題する実践報告があった。この授業は、教科書の内容はモデル化されてわかりやすい反面、複雑で難解な現実経済とかけ離れているのではないかという問題意識から構想された。中学校公民の「B 金融や経済の仕組みに関する分野」の「イ 経済把握」に位置づけられる内容で、為替レートを題材に、グローバル化と日本経済の関係を考える。その際、金融教育がフィナンシャル・ウェルビーイングにつながることをめざし、授業の最初と学習後に「円高と円安のどちらが幸福なのか」を生徒に問いかけている。教科書で学ぶ「円安は輸出に有利、円高は輸出に不利」を現実近づけるために、企業と輸出入相手国だけでなく、政府や金融機関、家計を加えた経済循環図を使って為替レートを理解しようと試みた点が特徴的である。その結果、円高、円安の幸福への影響が、立場によって大きく異なる点などを理解することができた。

この実践報告に対して、阿部哲久氏(広島大学附属中学高等学校)からは、架空の「広島円」を使った授業例が紹介され、山本雅康氏(奈良学園高等学校)からは、フィナンシャル・ウェルビーイングに結びつけるなら、長期・分散・積立を原則とした投資教育がよいのではないかとの意見があった。また、篠原総一経済教育ネットワーク代表からは、この教材で為替相場の本質が学べるのかという指摘と、「経済雑誌ダイヤモンド」の創刊号(1913年)復刻版に当時の為替相場の影響が解説されており、学習に役立つとの紹介があった。

次に、大塚雅之氏(大阪府立三国ヶ丘高校)から、前日に実施された「令和7年大学共通テスト」の「公共・政治・経済」の問題を分析した結果が報告された。まず近年得点率が低下していた政経が、今年はやや易くなった点、政経23問のうち経済分野が18問と多かった点などが指摘された後、個々の問題について簡単に紹介された。その後、注目される問題として、性別役割意識や外国人労働などいくつかの問題について詳しく説明された。右下がりの需要曲線と垂直の供給曲線を使った計算問題も取り上げられた。

報告に対して、垂直の供給曲線は何を想定しているのか(たとえば野菜)、どのくらいの期間を想定しているのか(短期には垂直でも長期では右上がり)などの議論があった。また山本氏、関本祐希氏(大阪府立市岡高等学校)らから感想が述べられた。

三番目に、阿部氏から「税と保険の違いから社会保障制度を考える」が報告された。高額医療費制度や厚生年金保険料など、再分配に関する話題を紹介した後、この問題を考えるための教材として、教育実習生が作成した指導案が紹介された。「公共」の内容Bを3時間で構成し、第1次で「保険料を払っていない人も、年金を受け取れるようにすべきか」、第2次で「健康保険は所得によって保険料が違うのに平等に医療を受けるのは許されるか」という問いをもとに、社会保険と税の違いをや社会保険の中にも税に近い再配分機能をもつものがあることを理解させる。そして第3次で深く考えるための図(長沼健一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』弘文堂)を示し、税と各種社会保険は、負担と給付がそれぞれ所得に応じてどう変化するかを確認した。その上で、老後の生活保



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



障は税と社会保険をどう組み合わせる制度にするのがよいか、議論し発表させている。

この授業案の第3次で使われた図に対しては、李洪俊氏(大阪市立矢田南中学校)などから面白く自分の授業でも使いたいとの感想があった。ただ、社会保障は生徒が自分のことと思えるかどうか難しいという点も指摘された。また関本氏からは、日本の場合税と社会保険、民間保険などが混在しており、国際比較を通して他国の組み合わせを学ぶのも理解に役立つとの意見があった。その他、奥田修一郎氏(高野山大学)から、社会保険のなかで介護保険が取り上げられることが少ないけれど多くの論点があり、授業で実践してみようと考えているとの発言があった。

その後、李氏から高校入試問題の分析結果の資料が配付された。全国都道府県別に、主権者教育に関わる入試問題のテーマを、2023、24、25年の3年間について、整理した表である。テーマに加えて選択問題なのか記述問題なのか、資料読み取りを必要とするかどうかなども記載されている。また、山本氏からは2学期の定期考査問題や授業で利用した大学共通テストの問題を紹介した資料が配付された。最後に篠原代表から、トランプのアメリカを始め世界の社会・経済の変化をながめてみると、「何が正しいのか」を確認し直さないと、教室でこれまで正しいと教えていたことが違ってくる可能性があるとの指摘があった。

(文責：野間敏克)

次回開催予定：2025年4月20日(日)15:00~17:00、場所未定